

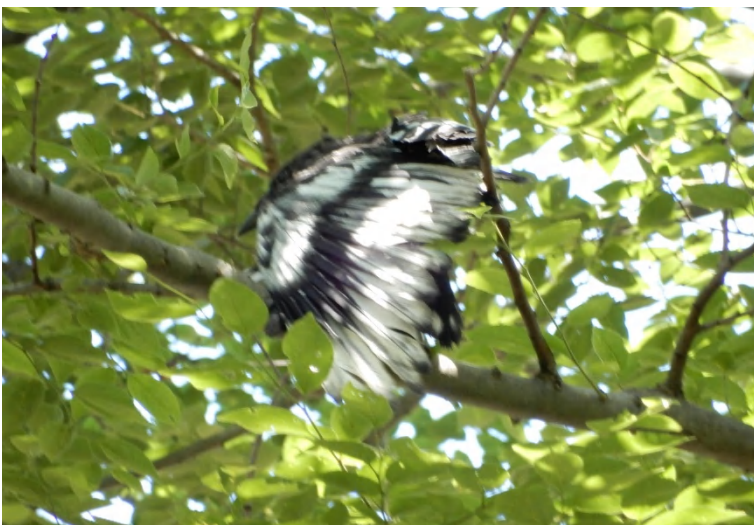
シロカラス

同窓会会員：石橋 正彦

投稿日：2017年7月13日

6月始め、教え子達（大学野鳥研OG）から「白いカラスを見に行かないか」とのお誘いが入った。行った場所は秦野の“くずはの家”。ここは昭和62年3月に「かながわのナショナル・トラスト」第1号に指定された秦野市営公園で、市街地近くとも思えないほど緑が豊かである。園内には葛葉川沿いに地層が観察できる場所があったり、吊り橋があったり、と市民が楽しめる公園である。

秦野駅でpick-upして貰い、車で15分くらいの所にある。行ったのが月曜日だったので、管理棟などは休みだったが、管理棟傍の樺の樹上に目当ての「シロカラス」はいた。まだ巣立ちして4・5日の幼鳥で、2羽巣立ちしたが、1羽は巣立ったもののうまく飛べず、池に落ちて溺れてしまったそうだ。梢で親に枝をねだって鳴いている声からもハシボソガラスであることがわかる。まだ胸あたりの羽が生えそろってなくて、嘴も開けた時は黄色く、幼さが見える。翼を広げると見事に白い部分が展開しており、中央に黒い線状の模様が入っている。



餌を与えに来たオスは尾の部分が少し白い斑点が認められる。メスは全く普通のカラスで、白い部分は見られない。このオスはこの公園で10年近く棲みついでおり、毎年白いカラスが誕生しているとのことであるが、今年のように鮮やかな白い羽が目立つのは非常に珍しい。勝手な推察であるが、現時点でこのようなきれいな白斑のカラスは、日本、あるいは世界でもこの1羽と以前生まれた(?)数羽だけではないだろうか。

シロカラスは「城枯らす」に通じることから昔は武士階級で嫌われた、と聞いたことがあるように、古くから知られた現象のようで、ネットで調べてみると、比較的最近も真っ白な個体は新潟、京都、北海道などでの報告例があるが、これらはメラニン色素が欠損したアルビノと考えられる。自然界にはアルビノは必ずしも珍しいことではなく、カラスの場合は嫌われるようだが、ヘビだと神のお使いとして「白蛇様」と信仰の対象にもなる。ネズミやウサギでは、メラニン色素がないということはチロシナーゼ欠損からアドレナリン分泌にも影響が及ぼされ、おとなしく扱いが容易ということになり、実験動物として有効利用されてきた。一方今回のようなまだら模様は伊丹、西東京などで見られたとの報告が10年ほど前にあった。専門家によればメラニン色素が部分的に欠損した突然変異によるものだろう、とのことである。

この公園では毎年観察出来ると言っていた未確認情報もあるので、来年また同じような白斑のシロカラスが観察できるか、楽しみが増えた。通常、探鳥会の度に「またカラスか」と無視される存在であるカラスも少し普通と違くと尊重される。個性を大切にしないで、というのは人の世界だけではない。